

## 令和7年度第1回下関市公立大学法人評価委員会 議事録【概要】

日 時：令和7年7月16日（水）10：00～12：20

場 所：下関市立大学大会議室

出席者：下関市公立大学法人評価委員会

吉田委員、藤上委員、佐伯委員、丹委員、中尾委員、事務局

公立大学法人下関市立大学

三木理事長、韓学長（副理事長）、杉浦副学長（理事）、吉鹿事務局長（理事）、法人事務局

1	開会のことば
事務局	<ul style="list-style-type: none"><li>○委員5名全員が出席</li><li>○委員の過半数が出席しているため、下関市公立大学法人評価委員会条例第5条第3項の規定により、会議が成立している。</li><li>○傍聴人はいない。</li></ul>
2	辞令交付
	<ul style="list-style-type: none"><li>○辞令を交付</li></ul>
3	委員長選出
事務局	<ul style="list-style-type: none"><li>○新たに丹委員、中尾委員が委員に就任</li><li>○下関市公立大学法人評価委員会条例第4条第1項の規定により、委員長は委員の互選により定めることとなっている。</li></ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"><li>○吉田委員を推薦（異議なしの声とともに、他の委員から拍手）</li><li>○吉田委員を委員長に選出</li></ul>
4	議 事
	(1)2024年度及び第3期中期目標期間における業務実績に係る評価について
委員長	<ul style="list-style-type: none"><li>○法人から実績報告書全体の概要について、説明をお願いします。</li></ul>
法人	<ul style="list-style-type: none"><li>○「2024年度及び第3期中期目標期間（2019年度～2024年度）における業務実績に関する報告書」について</li><li>○2025年5月1日現在、専任教員115名、事務職員64名の体制</li></ul>

○在籍学生数は、経済学部1,850名、データサイエンス学部167名、看護学部82名、大学院経済学研究科27名、特別支援教育特別専攻科4名

○2025年度の入学者状況は、学部、大学院研究科ともに定員オーバーの入学者を受け入れ

○一般入試志願者数は、看護学部の開設もあり、昨年度より265人増えて3,398人。一般入試志願者倍率については、公立大学中期日程において25.8倍

○中期計画における目標の3,500人より100人少ない状況だが、年度内入試の拡大傾向の中、新学部開設を受け、進学説明会、高校への訪問、SNSやテレビCMなどの広告展開、ホームページ等での広報の成果と考えている。

○2025年5月1日時点の就職決定率は98.6%と好調を維持。学生自身の努力とキャリアセンターによるきめ細かな支援の成果の現れだと考えている。

#### <2024年度の実施状況に関する自己評価>

評価	教育	研究	産官学 連携	管理 運営	計
Ⅳ	1	0	0	0	1
Ⅲ	46	9	22	33	110
Ⅱ	0	0	0	0	0
Ⅰ	0	0	0	0	0
計	47	9	22	33	111

Ⅳ：年度計画を上回って実施している(1項目)

Ⅲ：年度計画を概ね順調に実施している(110項目)

Ⅱ：年度計画を十分に実施できていない(0項目)

Ⅰ：年度計画を実施していない(0項目)

○評価「Ⅳ」の1項目について

項目番号6-1「教員の資質や授業能力の向上を目的とした研修

を企画及び実施し、授業等への効果的な活用を図る。」について、新任教員研修を年間11回実施し、FD・SD研修を複数回実施した。

○2024年度に実施した111項目のうち、自己評価ⅣとⅢを合わせて111項目、全体の100%について年度計画を概ね実施していることから、2024年度計画の全体的な達成状況は、「概ね良好である。」と自己評価をする。

<中期目標期間における中期計画に対する実施状況に関する自己評価>

評価	教育	研究	産官学 連携	管理 運営	計
Ⅳ	1	0	0	0	1
Ⅲ	28	7	14	20	69
Ⅱ	0	0	0	0	0
Ⅰ	0	0	0	0	0
計	29	7	14	20	70

Ⅳ：中期計画を上回って実施している(1項目)

Ⅲ：中期計画を概ね順調に実施している(69項目)

Ⅱ：中期計画を十分に実施できていない(0項目)

Ⅰ：中期計画を実施していない(0項目)

○評価「Ⅳ」の1項目について

項目番号6「授業改善の推進」について、FDに関するワークショップや講演会を毎年開催し、授業改善を推進してきた。特に、複数学部化に伴い、新任教員に対する研修を年間を通して定期的で開催することで、学部間の連携を含む教員の資質向上に努めた。

○第3期中期目標期間に実施した70項目のうち、自己評価ⅣとⅢを合わせて70項目、全体の100%について、中期計画を概ね実施していることから、第3期中期目標期間の全体的な達成状況は「概ね良好である。」と自己評価する。

<2023年度の業務実績に関する評価結果の反映状況について>

○計1項目の指摘に対し、2024年度内に全て対応した。

項目番号8-2「アセスメントポリシーの策定と内部質保証の推進」  
(指摘事項)

学修成果指標(ESLO)について、活用実績を把握できていなかった。学修成果指標は学生が活用しなければその導入目的を達成することができないため、学生の活用実績の把握に努めること。

(反映状況)

学修成果可視化システムの学生の活用実績(ログイン率)を把握した(2024年度:21.2%)。また、利用率向上のため、2025年度から新入生オリエンテーションでESLO及び学修成果可視化システムについて周知した。

大項目Ⅰ 「教育に関する目標」	
委員長	○2024年度の業務実績に対する評価が、中期目標期間における業務実績に係る評価にも影響があるため、大項目ごと一括で進める。
委員	○項目番号6「授業改善の推進」について、2024年度が評価Ⅳ、それ以前が評価Ⅲであったが、中期目標期間の評価をⅣとした理由は。
法人	○新任教員に対する研修会の継続的実施体制が整えられたことを評価したため。 ○大学教員は研究者で、新人教員に対する教員研修というのものをしっかり行わなければ、様々なトラブルの原因になってしまう。 ○従前は、年に1、2日だけ行っていたものを、毎月1回、1年かけて実施するという形にした。 ○毎回90分で、ハラスメント対応、学生指導等の研修を行っている。また、新任教員が各自の研究を紹介することにより、教員同士の理解を深めることができている。 ○教員からの評判も良く、その後の定着率、適応力も上がり、退職した教員もほとんどいないので、研修会は成果を挙げていると思う。
委員	○項目番号6-1の「教員の資質や授業能力の向上を目的とした研

修を企画及び実施し、授業等への効果的な活用を図る。」について、前段部分はしっかり実施したと記述されているが、後段部分については記述がない。評価Ⅳとしているのは、計画を十二分に実施したということだと思うので、後段部分についても記述する方が良い。

○項目番号8-3「卒業予定者アンケート及びIRアンケートを実施して学生の学習成果を把握し、当該結果を教学マネジメントに活用する。」について、アンケートで把握した学修成果に対する評価に否定的な評価は少なかったということだが、その結果がどのようなもので、それをどのように活用しているのか。学生も、自身の学修成果を見ることができるようになっているのか。

法人

○ESLOは二段階評価で、自分のことを主観的に評価する部分と、GPAと各科目とをESLOの項目に対応させて、その成績で達成度をグラフなどで客観的に確認でき、どう変化したのかも確認できるようにシステム化している。

○元々は、就職の際に、自分のポートフォリオとして、課題に対応し、それに合わせて成績も伸ばしてきたというのをアソートする資料として、面接の時に活用できる形になるように作った。しかし、今は就職がとても良く、学生が選ぶ時代になっている。そういうものがなくても、どんどん就職して、何社も受かっている状況になっている。だから、必要性が少なくなっている。特に中小企業とかであれば、本学の学生が来てくれないというクレームが来るぐらいになっているので。積極的に自分のことをアピールしたいという学生は使っていますが、そういうのをやらなくても就職できちゃうという状況になっている。

○アンケート調査は毎年実施している。現在、2019年のデータから提示しているものがあって、それに基づいて、毎年実施している。ただ、IRの観点から、本学はIR推進室を作っているが、それらの整理をして対応していかななくてはいけないということで、今、仕組みを工夫している状況。その中でも、ほとんどの学生から不満の声もなく、最近では、学生主義でいろんなサービスも充実し、先生方の学生に対する態度も非常に

	<p>良かったからだと思うが、アンケートの結果を見ると良かった。</p> <p>○授業評価の部分は、ちょっと別の内容になってくるので、後ほど。</p>
委員	<p>○学習成果、時代がそういう状況になっているので、言われたとおりかと思う。</p> <p>○項目番号12-2のリカレント教育について、元々のプログラムが難しすぎる面があったことを踏まえて、スキルアップコースを導入したことは、評価できると思う。</p> <p>○項目番号15「質の高い学生の安定的な確保」について、新型コロナウイルス感染症を契機に志願傾向は変わったか。</p>
法人	<p>○新型コロナウイルス感染症だけでなく、公立大学の増加していること、文科省の統計でも地元進学率が増加していることから、遠方での受験が減っている傾向にあると思う。</p>
委員	<p>○学部における教育の充実に係る中期目標として「教育、学習に係る調査分析結果を的確に次のステップに反映させるとともに、学修成果指標を整備し、学生の成績評価、単位認定、学位授与の適性を確保する。」とあるが、どのような調査を用いて評価をしたか。</p>
法人	<p>○先ほど説明したESLOのこと。認証評価で高い評価を受けて、各大学が学修成果を評価するということに取り組んでいるが、指標も取り入れてシステム化した大学は少なく、本学独自の取組である。</p> <p>○ESLOが学生ニーズにどれだけ合っているのかという点については、今のところ改善の余地があると考えている。</p>
委員	<p>○中期目標の下に中期計画があり、中期目標と照らし合わせて見たときに、この部分はどの項目に当たるのか疑義があったので質問した。項目番号8の学生評価指標の部分で、評価Ⅲとなっているので、結構できているんだと思う。</p> <p>○項目番号5「グローバル化への関心の涵養」について、「毎年度延べ100人以上の学生が海外研修の経験をするをを目指す」となっているが、総括の欄に記述がない。コロナ禍で困難を極めたと思うが、海外研修の現状について、説明を。</p>

法人	<p>○コロナ禍をきっかけに海外研修は大きく減少した。未だにマスクを外すことに抵抗を感じる学生もあり、それに加えて、コロナ後は円安の影響もあって、海外研修が難しいという状況が続いている。</p> <p>○しかしながら、本学としては海外に学生を送り出したいので、2つの戦略で臨んでいる。</p> <p>○1つ目は、中国や韓国など、費用を抑えて参加できるプログラムの海外研修を実施している。</p> <p>○2つ目は、今の学生は、海外に行く理由が見つからないということが多いので、海外からの留学生を多く受け入れて友達になってもらって、海外に出るモチベーションを上げるため、交流協定校を増やしている。現在の19校から、今後は50校ぐらいまで増やしたいと考えており、急ピッチで進めている。その結果、今年の秋からは、フランスとドイツから約7名の留学生が来ることになり、来年は30名ぐらいまで伸ばしたいと考えている。そうすると、キャンパスが少し国際的な雰囲気になって、お互いに友達になったりすると、海外に出るモチベーションも高まると思う。</p>
委員	<p>○確かに、コロナ禍は完全に閉鎖されている状態で、円安によって、費用がすごく高くなっている。これは、どこの大学も同じ状況だと思う。アメリカがビザに関して厳しい状態なので、行けるところが少なくなってきていると思う。言われたように、ドイツとフランスから来てもらうというのは、かなり有効な手段だと思うが、学生のモチベーションが落ちているというのが一番大きいかもしれない。</p> <p>○考えられる方法として、こちらから行けないとすれば、留学に来ていただくというのは、一番いいと思う。今、どれくらい的人数が留学に来ているのか。</p>
法人	<p>○2024年度の実績には入っていないが、今年は大いぶ増えている。</p> <p>○中央アジアのキルギスに本学の教員を1名派遣して、キルギス日本文化・日本語教育学術センターを9月に立ち上げる。そこでキルギスの子たちに日本語で文化を教えて、本学に受け入れるということを目</p>

指している。東南アジアでは、ベトナムの大学に日本語学科を立ち上げるのに、本学が携わる予定で、インドネシアにも同じくセンターを作りたいという話がある。東南アジア、中央アジアを中心に留学生を受け入れるという仕組み。

○ヨーロッパは、イタリアのシエナ大学と大阪万博の時に提携を結び、今度はベネチア大学、それとチェコの大学と提携を結ぶ方向で進めている。フランス、ドイツ、イタリア、チェコで約30名が見込めると思う。目標としては、学内にヨーロッパの学生が100名ぐらいがいるような状況を作りたい。

委員

○国によって状況が異なるので、いろんな観点でディスカッションできると思う。

○どこの大学も大変だというのは分かるが、中期計画のところに「100人以上の学生を目指す」と記述しているので、総括ではそこに触れた方がいい。止むを得ない事情により、計画が実施できないということはあると思うが、それでも評価をⅢにしているということが、どうかと思う。頑張っていることは分かるが、計画に数値が挙がっていたので気になった次第。

○項目番号15について、「質の高い学生の安定的確保」という計画であるが、総括の記述と整合性がないのではないかと。3,500人という数は達成できなかったことは記述されているが、質的にはどうだったのか。計画と実施内容を合わせて見ているので、細かい点だが気になった。

○志願者数3,500人以上の目標を達成できていないが、評価Ⅲとした点について、説明を。

法人

○先ほどの海外研修と同じで、3,500人は達成できる見込みだったが、コロナ禍という予測もできない大きなことが起きて環境が変わったため、達成できなかった。

○現状では達成が不可能に近い数値であることから、下方修正することを市と協議したが、修正に至らなかった。

	<p>○本学としては、3,500人を目標とすること自体が嘘に近い、詐欺に近いという風に思っており、それは評価しようがない。</p>
委員	<p>○項目番号35「大学院入試制度の見直しと広報の強化」について、中期目標は「質の高い学生を安定期に確保」であるが、大学院入試を口述試験のみに変更して、受験生の「質」は一定の水準が保たれているのか。</p>
法人	<p>○地方の公立大学の大学院に質的なことを求めた時点で、それは詐欺に近いと思っている。本学も、10年間、青島の協定校からの学生が1、2人しか応募がない状況で、質を問われること自体が不可能に近い。</p> <p>○大学としては、1人来るかどうかわからない状況で、教員は試験問題を作成し、作成に係る手当を支給していたが、それを廃止して、口述試験に変更した。</p> <p>○現在、大学院の定員を上回る倍率となっており、受験者は社会人が多いが、質的な担保という点では、口述試験で受験者の意欲をしっかりと汲み取るという形で実施している。以前よりも論文が増えており、一定の成果を上げていると思う。</p>
委員	<p>○専攻科は定員未充足となっていることに関して、説明を。</p>
法人	<p>○専攻科は、定員が存在しないシステムになっている。要は、目安として10人を受け入れるということであって、定員が定められた課程ではないため、定員を上回った、下回ったということで、指導・指摘が入るものではない。</p> <p>○日本は特別なニーズがある子供達が増えており、特別支援学校や特別支援学級が増えているが、特別支援学級の二種免許保有者が30%に留まっており、教育現場の無免許運転が蔓延している状況。文科省が1年で免許が取れるコースを立ち上げ、本学が開設したのは、下関市が山口県で最も人口が多い都市で、特別支援学級も、特別支援学校も、不登校も増えており、それに対する専門家養成が地域の課題であるから。現職教員に来てもらう必要がある。しかし、教育</p>

現場の教員が不足している中、教員を派遣して、実習を2週間行くと、その教員が学級担任をしていると担任が不在になるなど、極めて条件が厳しい。文科省は、免許保有者数を増やしたいのであれば、条件を緩和すればいいものを、緩和しない。市の教育委員会は、専門家が必要だと言っているのに、養成するための努力をしない。そういう状況が続いているだけ。

○本学は努力しており、公開講座は約100名が受講するなど、様々な努力を重ねている。2人しかいないコースに、非常勤教員を5、6名配置し、夜間や土曜日にも授業を開設して、とてもいい状況を作っているけれども、地元が応えられていない状況。これは、正直に言って、中期目標の時点ではなかった話なので、これ以上は無理だと。やることは十分やったと思っている。

委員	○項目番号20「学修支援の充実」について、最短在学卒業率が留年率、中退率、休学率とどう関連しているのか。
----	--

法人	<p>○最短在学期間卒業率は、計画的に学修を進めるということで設定をしている。本学は、経済学部については進級の条件を設けておらず、自動的に4年生になり、そこで留年するという仕組みになっており、留年した学生のうち半数は5年で卒業できるが、残りの半数は留年し続けるという状況が生まれてしまっている。そのため、留年率等で把握するよりも、最短在学期間卒業率で把握することが適切と思っている。</p> <p>○中退については、学修が限界な学生に対しては、大学に在籍していてもあまり学ばないというような状況で強いても、なかなか難しい状況であるため、むしろ積極的な進路変更を勧めている。「頑張ります。」という学生には、限界まで声を掛けるけれども、どうしてもやれない場合には、進路変更を勧めている。こういう状況からも、最短在学期間卒業率を目標値に掲げていたところ。</p>
----	--

委員	○データサイエンス学部と看護学部は、進級の基準があるということか。
----	-----------------------------------

法人	○データサイエンス学部については、2年生の時に特定の科目数、単
----	---------------------------------

位数を取得しなければ進級できないようにしている。これは、データサイエンス学の場合は特に、初年次で学ぶような数学・統計が理解できていないと、高年次の科目が理解しづらいということがあるから。

○一方、経済学部については、初年次の科目はしっかり学んで欲しいが、どうしても単位を取れない学生は、自分と同学年の学生がいると出席ができるが、ここで留年をさせてしまって下の学年と一緒にしかできないよとなると、出席が難しくなってしまう。過去にも、検討したこともあるが、現在もハードルを設けていない。

委員 ○1年間の履修単位、登録単位の上限はないのか。実際に全部取るとかもできるのか。

法人 ○46単位という上限があります。全部取ることはできません。そのため、3年の時に4年で卒業ができないということは確定する。ただ、学年としては進級するという形になる。そのため、卒業が危うくなった時点で面談等を行っている。

○理系と違って文系は、そういう基準を設けるのは結構難しい。国の制度によると、経済学部は、例えば、1学年190名の定員に対して、法的な教員数は12名しかいない。1つのゼミに16名の学生がということになる。本学は、看護学部が1学年80名に対して、教員数が40名だが、経済学部は1学年450名に対して、教員数が55名しかいません。そこから、教養、体育、教職を除いた専門の教員は34名で、管理を行っている。進級させずに留年させると、この管理事態が不可能に近いので、それは制度的に無理な話になってくる。

委員 ○項目番号3-2の Google Classroom の活用について、コロナの時に対面でレポートを受け取らないということになったが、オンライン(moodle)で課題を出すと、学生からもオンラインで提出がある。そうすると、「答え」だけを書いてくる学生がいる。途中過程が大事で、その過程で解いていって上手いかなかったものはOKだけども、最後の「答え」だけを書いているのはダメだと。オンラインで実施する時の欠点だと思うが、何も試行しないで結果だけを書いている学生がいるというこ

と。これをやりだすと、たぶん授業が成り立たなくなる感じがする。さらに、データサイエンス学部であれば、OpenAIを使って、いろんなことをやりかねないということもある。オンラインの活用にはこのような面もあるが、どのように学生の評価をしているのか。

法人

○仰るとおり、非常に難しい問題である。実際に、学生が書いた文章を、AIが書いたものかどうかを検査するAIツールがあり、世の中人間が書いた文章を全て学習しているので、検査にかけると、「AIが書きました。」と判定できるぐらいAIの精度が上がっている。衝撃だったのが、私が書いた文章も「AIが書きました。」と判定されるぐらいなので、ほとんどの文章がAIの範囲の中にあると思う。そういう部分が難しいところではある。

○データサイエンス学部の教員は専門家で、学生80名に対して教員が17名いらっしゃるので、しっかり各クラスで、そのようなことをちゃんとチェックし、成績評価に反映できるように進めている状況である。ただ、経済学部は、1講義に500名の学生が受講するものもあるので、これを1人の教員で対応するというのは不可能に近いので、どうしてもそういう問題があると思う。

委員

○対面授業をやっている時は、質問等を全部受けて、回答していくので、学生と緊密で確実なのかと。私も同じようなことで苦しんでいるので、どういう具合でやっているのかと思い質問した。非常勤教員をしている大学の数学の試験は、統一試験で一斉に実施しているが、学生がセンター試験の雰囲気を受けに来ている。評価は間違っていないと思うが、オンラインになったために、大学の授業に対して疎遠になる学生が出てくるというのは不安を感じる。

○項目番号8-3の授業アンケートについて、アンケートの結果は、当然、担当の教員に返して、次の年度をよろしく願いますと思うので、教員に対してそれでいいと思う。それ以外に、学生からの授業評価に関する質問ができるようなシステムになっているのか。例えば、授業評価が不可だったが、そうではないのではないかというような質問。

法人	○採点結果等の問い合わせの対応規定があり、それに従って学生が教務課の方に届け出て、それを教員に確認していただくというプロセスになっている。
委員	○それは、期間が決まっているのか。
法人	○成績発表から概ね1週間程度となっている。
委員	○私も経験したことがあるが、「絶対に通せない。」というような内容の質問をしてくる学生もいた。やはり、事務方を通してもらうと、学生も変なことは書けないと思う。そうでなければ、返ってくる回答の可否も、厳しい内容になってしまうと思うので。 ○項目番号15の志願者数について、入試倍率が2倍を下回ってくると、いろんな問題があると思う。看護学部の前期日程は1.8倍であるが、これはやはりPR不足ということか。
法人	○データサイエンス学部の時もそうだったが、新設の学部を少し警戒するというか、志願者が集まりすぎると不利になるのではないかと思い志願しなかったと、後から聞いたことがある。それで、データサイエンスの推薦は苦労しましたが、結果的に、一般選抜の倍率は非常に高く、問題はなかった。最初の年は、やっぱり不安定になる。
委員	○看護学部は安定していると思っていたが、そうでもないのか。
法人	○看護学部も、今、非常に競争が激しい。
委員	○データサイエンスという言葉が、社会に完全に浸透してないから、学生からすると、仕事と結びつきにくいというふうに思った。看護の方は仕事に結びつきやすい。
法人	○経済学部の方が倍率が高いのは、こんなこと言って申し訳ないけれど、潰しが利くというか、正直に言うと、誰でも入れるんじゃないかという意識があるから、マーケットがそもそも広いという面があると思う。看護学部は、入ってくる可能性のある学生が限られてくるので、要するに、奪い合いになってしまう。山口県も、実際に看護学部に進学できる子は限定されるけれども、その中で、山口大学、山口県立大学、周南公立大学、本学が競争していて、看護学部の入試が有利かというところ

	<p>然そうではない。</p>
委員	<p>○入試全体で見るので、推薦の部分とか、地域との関係が大事だということに理解した。</p> <p>○データサイエンス学部の入試は、数Ⅱ・Bまでか。数Ⅲは入っていないのか。</p>
法人	<p>○入っていない。</p>
委員	<p>○以前も質問したが、数Ⅲが入っていないことで、授業についていけない学生が出てくるのではないかと。最初の年度は、優秀な学生が来られるけれども、全体が安定してくると、授業についていけない学生が出てくる可能性があると思う。数学のベースが数Ⅱ・Bまでだと、統計は数Ⅱ・Bまで入ってくるが、数Ⅱ・Bの段階から、微積分をやって、線形代数、行列代数とかやらないと、データサイエンスまで、間違いなく行き着かない。どのように授業をやっていくのか。</p>
法人	<p>○仰るとおりで、既にそのような学生がいます。数学の教員2人が積極的に教育を行っており、なんとか一定のレベルまで引き上げようと努力しているが、なかなか厳しい。</p> <p>○それに、北九州市立大学が情報イノベーション学部を118名定員で2027年度に開設するので、そこができてしまうと、本学に来る学生のレベルはさらに下がるだろうという状況。</p> <p>○定員を埋めたとしても、やはりレベルが下がると思うので、学生の質の担保というのが、地方の公立大学はとても重要な課題になってくると思うし、下手するとハラスメントになってしまうので、学生に強要するとも厳しい時代。仰るような問題は、大きな問題ではある。</p>
委員	<p>○数Ⅱ・Bまで話を進めて、全体で卒業まで持っていこうとすると、データサイエンス学部は大きく分けて二通りあると思う。データを統計的に分析するのと、もう1つは、SEみたいに、ビックデータをどう加工するかというもの。今の説明を聞くと、前者の方に入ると思う。北九州市立大学の方は、ベースになる工学部と両方になるので、文理の両方が入ってくると思う。そういう意味から、卒業まで持ち上げるにしても、統計的</p>

な分析を行うには、最後、絶対に行列代数が必要になる。主成分分析とかが行列代数になっているので、全部使うはず。積分はもう確実に。最低限のところを使っている。そこを、マスターしていないと、恐らく、最後のところまでたどり着けないだろうという感じがする。だから、学生が落ちこぼれないように、どのようにサポートしていくかというのが課題だと思う。現状はどうか。大変か。

法人

○今の時点で大変。今の学生たちは、数学が嫌いな子が多いので。

委員

○経済学部の入試は、数ⅡBまで。そうすると、理系を目指したが、避けて、数ⅡBまでで、文系の経済に行ければ有利と思って、経済学部に来る学生が生まれていると思う。だから、一度、理系を目指したけれども、ちょっと諦めているという感じがする。その辺の境目だと思う。もう少し、理系の数学的なものや要素を使ってやりたかったなという感じがする。

○とにかく、1回目の卒業生をきっちり出さないといけない。1回目の学生が、いい所にきちっと就職してくれると、後が続いていく。そこまで持っていけないといけない。

○項目番号12「リカレント教育への取組」について、企業の人手不足という観点から見ると、人材育成という意味で非常に興味があるところ。定員に対する受講者数は、コースによってばらつきがあるが、少ないものもある。コースのテーマは、いずれもタイムリーなものだと思うが、開催する前に、企業とか受講者に対するニーズは把握していたのか。

法人

○実は、ビッグデータとか、エクセルとか、ITに関しては、調査どころか、山口フィナンシャルグループの提案に基づいて、取引する企業から何人ぐらい派遣が見込まれるからやりましょうということで、国のプロジェクトに応募して開設した。蓋を開けてみると、受講者が来ない。だから、大学としては、何でだろうという感じ。宣伝もして、週末にやったほうがいいと言われて、週末に開講した。今度は、週末にやると従業員の労働上の問題が生じるから、平日にやってほしいと言われ、平日に開講した。全て言われたとおりに実施したが、来ない。よくよく聞くと、需要

はあって必要性も高いが、その企業も人手不足だから、人を派遣したら、その仕事をどう埋めるかとか、誰を派遣するかとか、そもそも、中小企業の従業員が学ぶモチベーションがあるのかとか、根本的な問題がありすぎて、こういう状況になっている。

○一方で、例えば、子ども才能マネジメント専門家養成コースは、全国から受講者が来ていて、東京のメーカーからも40名ぐらいの受講生が来ている。事前交渉で受講生が見込まれたから開設したが、東京の企業は、従業員を派遣すると言って、ちゃんと派遣した。地元の企業は、派遣すると言ったが、派遣しなかった。その結果の違い。

○そうは言っても、本学のリカレント教育センターは、受講生が多いので、国の模範的なリカレント教育センターに挙げられて、見学に来られたりする。開設して6年になるが、優秀なリカレント教育センターとして評価されている状況。

委員長

○大項目 I「教育に関する目標」について、意見をまとめていく。

○まずは、2024年度業務実績に対する年度評価を決定したいが、変更点あるか。概ねできているという感じがするが、各委員いかがか。

委員

○全般的に熱心に取り組まれていて、評価Ⅲだと思う。

○自己点検・自己評価は、やはり課題を見出して、次回に繋げていくというところもあると思う。本当に課題がなかったかどうかという点は、少し気になる。

○課題としてうまくいっていないところについては、先ほどの議論の中でもあった。

○いろいろな面で、段々と選択肢が狭くなっているとは思う。

法人

○結局、課題が1つの大学の力で解決できるような課題ではないものが多くなっている。それを、課題として理解してはいるが、我々が修正できるかというところ、とても厳しいところではある。だけど、課題は課題として、しっかり認識はしている。

○少子化というのは、我々が頑張ることができるものではないし、少子化が全てに影響している。学力低下、ニーズのある学生の増加、地元企業

	<p>の人手不足など、様々な問題を抱えている。総合的に、一番の根底はそこにある。しかしながら、努力はしていかないといけないと思う。</p>
委員長	<p>○課題に対して、打てる手が一応、狭くなっている。その中では、やることはやってるという感じだと思う。評価は、自己評価のとおりでよろしいか。</p>
委員	<p>(異議なし)</p>
委員長	<p>○次に、中期目標期間における業務実績に対する評価を決定したいが、評価は、自己評価のとおりでよろしいか。評価の変更はないか。</p>
委員	<p>(異議なし)</p>
委員長	<p>○次に、特筆すべき事項、指摘すべき事項について決定したいと思うが、最近の状況で問題になっているのは、学生がついていけるかどうかというところ。今後、いろいろなところに問題が出てきてしまうと思う。その部分に関して、今はまだ見えない部分もあるかもしれないが、十分に対応していかないと、最後までたどり着けないかもしれない。留学に関しては、やむを得ない。最善の手を尽くされていると思う。</p>
事務局	<p>○特筆すべき事項、指摘すべき事項について、法人の当初の説明の中で、特色ある取組や成果が上がった取組の説明があまりなかったが、追加で説明をしていただければ。</p>
法人	<p>○これからは、リメディアル教育とかが重要になってくるということで、十分な対策をとるという点は、今、ご指摘いただいたと認識している。</p> <p>○2024年度までに実施した教育の取組の中で、特に注目すべきことというのは、教員に対しての教育というのを非常に充実して行ってきたということが、1つ大きいと思う。改革の中で、教員の方々が様々な問題を抱えていたので。それを、この2年間、全ての新任教員の中に私も参加して、計画を実施してきて、今、非常に本学の教員社会が安定している。それが一番、成果が上がったと思う。</p>
委員長	<p>○特色があるなと思ったのは、海外に出て行く手段が今はないので、海外からの留学生を入れて、できるだけやるというところ。なかなか、そこまでできないと思う。</p>

大項目Ⅱ	「研究に関する目標」																												
委員	○項目番号26「独創性及び特色のある高水準の研究の推進」について、総括に「高水準」について触れられていない理由は。																												
法人	○第3期中期計画には、高水準の研究の定義がなく、主観的なもの。そのため、主観的な総括はできないと判断した。 ○第4期中期計画では、世界大学ランキングの基準になる Scopus と Web of Science の登録数を基準として進めている状況。																												
委員	○項目番号28「科学研究費助成事業等への申請・採択の向上」について、総括に申請率は記載されているが、採択率の状況は。																												
法人	○申請率及び新規採択率 <table border="1" data-bbox="395 797 1422 1066"> <thead> <tr> <th>申請年度</th> <th>2019</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> <th>2023</th> <th>2024</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>申請率</td> <td>67%</td> <td>91%</td> <td>85%</td> <td>80%</td> <td>94%</td> <td>95%</td> </tr> <tr> <th>採択年度</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> <th>2023</th> <th>2024</th> <th>2025</th> </tr> <tr> <td>採択率</td> <td>11%</td> <td>10%</td> <td>11%</td> <td>16%</td> <td>14%</td> <td>8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>○本学は、申請そのものが非常に低く、それを上げるので精一杯だった。過去の評価委員会でも、とにかく100%に近づけるようにというご指摘もあり、申請数を上げるために努力してきた。申請率が90%を超える頃から、採択率に注目するようになり、第4期中期計画では採択率を指標に掲げている。</p> <p>○しかしながら、直近で採択率が下がっている理由は、看護学部には実習担当の教員が半分くらい在籍していること、新任の教員が増えていること。研究を主に行う教員が増えてきてはいるが、採択率をどのように上げていくかという、大きい課題はある。</p>	申請年度	2019	2020	2021	2022	2023	2024	申請率	67%	91%	85%	80%	94%	95%	採択年度	2020	2021	2022	2023	2024	2025	採択率	11%	10%	11%	16%	14%	8%
申請年度	2019	2020	2021	2022	2023	2024																							
申請率	67%	91%	85%	80%	94%	95%																							
採択年度	2020	2021	2022	2023	2024	2025																							
採択率	11%	10%	11%	16%	14%	8%																							
委員	○要は採択率が下がったのは、新任教員が増えた影響ということか。																												
法人	○件数も、額も下がっていないが、やはり教員が増える分、率が下がってしまう。																												
委員	○これから上がっていくということか。 ○科研費以外にも、いろいろな補助金がある。																												
法人	○これから採択率を上げていくのは、難しいと思う。なぜなら、先ほど																												

申し上げたように、看護学部の教員の半分は実習担当の助手助教で、その方々も本学の教員としてカウントするので、結構厳しい状況ではある。

○その代わりに、科研費だけではなく、他の外部資金、企業との共同研究とかもやって、全体的な外部資金の額を増やしていきたいと計画している。

委員 ○今の説明によると、採択率の向上については、取り組んではないのか。そんなことはないと思うが、総括には申請率しか記載がなかったので。採択率も目指した計画なのに、なぜ片方しか記述しないのかというところ。

法人 ○仰るとおりに、実際、採択率も上がって、成果が出ている。過去の法人評価委員会で、申請率が非常に強調されていたので、それに応じて、このように記載したというところ。修正をする。

委員 ○きっと、採択率も上がっているというふに思った。  
○看護の方で、助手助教は研究しないということだったが、助教は研究する人ではないのか。

法人 ○研究するし、頑張っていらっしゃるが、採択率となると、少しハードルがある。しかし、本学は、助手も助教も差別なく、全く同じ研究費を配分し、本人達も、この1年間の新任教員研修会の中で、研究力が高まっているということもある。頑張っていきたいというふうと思う。

委員 ○看護系大学は教員が不足しているので、育てるという視点で支援をされているということは素晴らしいなと思う。  
○以前も聞いたかもしれないが、科研費の申請のサポート等はやっているのか。

法人 ○科研費は、北九州市立大学のような大きな大学は、システムがちゃんと思うが、本学は教員に任せっ放しで、それを、総務課の担当職員1人が、全てを申請するというような形をとっていた。  
○そのため、URA室を立ち上げて、兼任も含めて4人の教員を配置して、チェック機能を、レビューみたいな形でやっている。見てくれれば、ヒ

ントになるものもあるし、非常に助かったという意見が多く、申請率も上がっている。それに、採択数は増えているが、率としては下がっているという状況。

委員	○項目番号29-1の論文掲載助成制度について、説明を。
法人	○ご存じのように、データサイエンス系の海外のジャーナル、評価の高いジャーナルの掲載料が、円安の影響もあって、非常に高騰している。そのため、個人研究費だけでは賄えないという状況。全額を大学が払うというのにはできないが、研究力が上がらないとデータサイエンス学部は致命的なので、補助制度を設けて、支援していかなければならないということで、制度を設けた。Scopus以上の掲載論文に関して、申請があれば、予算の範囲の中で配分していくという制度。
委員	○個人研究費とは別に補助を与えるということか。
法人	○そのとおり。
委員	○ジャーナルの値段が上がっていて、そうしないともたないと思う。 ○項目番号32-1の研究成果等を広く社会に公表することについて、Journal of Intelligence Science in Local Researchを新しく作ったということの説明を。
法人	○本学も、紀要論文を発行していたが、J-STAGEに搭載もされず、URLもついてないので、先生方が評価されにくい状況だった。それを改善して、全てJ-STAGEに搭載して、全てオープンアクセスできるように整理した。その中で、先端地域科学研究所のジャーナルは、今年までは学内で発行するが、将来的に、外国の編集委員とか査読委員を設けて、先生方の研究業績を作っていくのに役に立つような形にしたいと思っている。最初は9本ぐらい、第2号は7本ぐらいだったが、査読が厳しすぎて、少し本数が減ってしまった。
委員	○査読は1人か。査読する方を見つけるのも大変だと思うが。 ○発行主体は大学か。
法人	○査読は2人。査読を受けてくれる人が少なくて。 ○大学が発行している。

委員	○普通は、何とか学会とかをローカルで作るところを、大学全体で査読付きの論文を作った。レフリー作業が大変だと思う。
法人	○本当に大変で、維持していけるかどうか。運用するのも大変。
委員長	○大項目Ⅱ「研究に関する目標」について、意見をまとめていく。 ○まずは、2024年度業務実績に対する年度評価を決定したいが、評価は全てⅢでよろしいか。法人の自己評価を変更するところはないか。
委員	(異議なし)
委員長	○次に、第3期中期目標期間における業務実績に対する評価を決定したいが、評価は全てⅢでよろしいか。法人の自己評価を変更するところはないか。
委員	(異議なし)
委員長	○次に、特筆すべき事項について、ご意見はないか。法人から伝えておきたいことはないか。
法人	○本学ぐらいの規模の大学で、URA室を設けて、NVIVOとか、システムを導入して研究に使えるようにするなど、研究支援を行うというのは、珍しいかと思う。 ○研究は、本学の規模でできるぐらいのことは、ほぼやってるのかなと思う。論文の掲載支援の制度を設け、研究費支援は、西日本の公立大学の中では、個人研究費も高い方だと思う。各種委員会も縮小して、先生方の教育研究に使う時間を増やしてきた。研究環境は非常に良く、先生方も満足して定着し、ほぼ辞めないという状況。
委員長	○研究の部分まで終わったということで、以降は、次回にさせていただく。次回について、事務局から連絡事項を。
事務局	○次回の評価委員会は「Ⅲ 産官学連携の推進に関する目標」から評価をお願いします。
委員長	○本日の評価委員会を終了する。